

HIGASHI・MINT 未来 PJ(プロジェクト) ～ 小・中学生バレーボールチーム理念の発信 ～

東京都八王子市小学生バレーボールチーム HIGASHI JVC・中学生バレーボールクラブ MINT

はじめに・・・目的

時代、社会の流れの中で、指導理念については変化してきています。背景には情報共有方法の飛躍的進化、未来に向けてグローバルな人材育成が求められる社会があります。視覚に飛び込んてくるスポーツシーンや文化的活動シーンの到達点は、私たちに感動と夢を与えてくれます。

しかしながら、特に入り口である小学生・中学生においては、そこに至る過程に課題が無いとは言い切れません。人間形成、勝利至上主義、育成過程での問題に対して、理念と方策により、より良い方向に育成できる可能性があるはずです。そこに視点を置き、理念の再構築と実践を各クラブチーム(公私)が担う必要があると考えます。ここでは、そのための方策の紹介と今後の展開について考え、発信し、動き始めることを目的とします。

さらに、興味関心を抱いていただき、バレーボール、スポーツに限定せず、協働や連携を図ることができれば幸いです。もちろん、私たちのチームがさらに理念を発展させ、子どもたちが主体となる実践を発信をし続けることも目的の一つです。

1. 私たちが進めたいこと

- (1) 子どもたちが、真に自分で考え、発信し、課題解決のためにチャレンジし、自分と周囲を変容へと導く主体となるための理念を発信し、協働により推進すること。基本理念は以下の通りです。
 - ① 互いに高め合い、課題解決のための方策、ツールの計画的な実践(ピアコーチング、ピアラーニング、SNSの活用、多彩な取り組み)を通して、総合的に子どもたち自身とチームの成長へと発展させる。
 - ② 自ら気づき、発信し、お互いにその価値を認め、尊重し、向上心や創造力へと昇華することが自然にできる子どもを育成すること。
 - ③ 必要な方策、提案、評価を子どもたちから発信することができ、自ら主体的に創生したり参画したりしようとする子どもを育成すること。
 - ④ 理念を理解発展させる人材の育成とスポーツ以外を含む関係機関との連携を構築、発展させること
- (2) HIGASHI JVC・MINTでの実践を整理し、チームメンバー、保護者、地域、指導者の考え方の変容や成果、課題を明らかにすること。
- (3) 実施してきた項目と内容について、特に推進していきたい3点について進めること。
 - ① ピアコーチング、ピアラーニングを含む、考え方を育てるための実践と浸透
・自考自成、合意形成、マネージメントを小中学生段階からつくる。
 - ② コーチングの見かた、考え方を共に考える教育機関、多方面の関連機関、指導的立場を目指す学生等との連携。
 - ③ 子どもたちが主体的に検討、推進の場面に参画すること(機会)。

2. 進め方

(1) 知っていただく

- ① 昨今の小学生・中学生のスポーツチーム(部活動を含む)の現状。
 - ・子どもが主役というけれど・・・、考えるバレーというけれど・・・。
 - ・中学校部活の地域移行化・・・競技思考、レクリエーション思考、生活指導やキャリア教育の観点
- ② HIGASHI・MINTの理念と実践の紹介(中学生クラブ MINTについては2025.4発足)

- ・ピアコーチング、ピアラーニング。
- ・自分を知る方策、課題解決の方策。
- ・マンドラートに表した項目（実践内容の進捗表）の進捗と理念との結びつき。

(2) 体験していただく

- ①対象 → 小学生・中学生・・・体験会、合同練習
- ②対象 → 高校生・大学生・・・特に指導者、各種サポート（技術指導以外を含む）を目指す学生
- ③対象 → 指導者・企業・大学関係者・地域理解推進関係者等・・・参観、体験（競技種、文科系・運動系を問いません）

(3) 協働していただく（案）

- ①他チームとの合同練習等を活用した啓発活動
- ②大学ゼミ、部活、関心のある方との情報交換、共同研究、事業サポート
- ③教育委員会、行政、企業、民間団体等その他関係機関とのマルチステークホルダーミーティング、フォーラム、シンポジウム等への参画。

(4) 報告

- ①2023.12 チーム保護者会にて説明
- ②2024.3 進捗報告 以降夏季、春季に進捗報告
- ③2025.8.2 情報共有会「夏のフォーラム」実施
- ④その他 随時ホームページ、Instagram にて報告

3. 発起人及び進行、連携者等

齋藤 秀樹（HIGASHI JVC 指導者）、前田 衛（HIGASHI JVC 卒業生保護者）、
前原 三輝（HIGASHI JVC 指導者）

4. 連絡先

(1) HIGASHI JVC ホームページより

メールアドレス higashi_jvc@yahoo.co.jp （ヒガシアンダーバーージェイブイシー）

saitou8686@icloud.com （齋藤）

電話 09061695387（齋藤）

ホームページ <https://higashijvc.wixsite.com/higashi>

Instagram



@HIGASHIJVC

5. 資料

(1) 項目進捗表「HIGASHI・MINT の未来に向けて」（HIGASHI JVC の例）と実施経過詳細。

(2) 各種イベント、企画、課題、課題シート、他実践資料。

(3) 子どもが作り上げるもの「参考書」、チームへの発信物、他。

(4) HIGASHI JVC 子供向けワークショップ「寺子屋資料」他。

今後随時追加する予定です。なお、数が多いため、データ化し別途資料集として発信します。

(5) 関係ホームページ

HIGASHI JVC



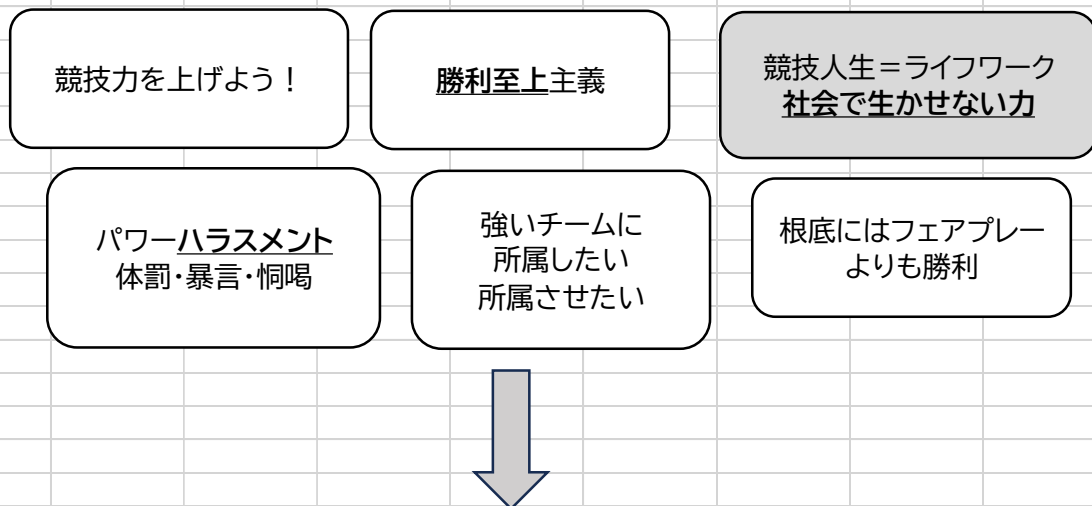
中学生クラブチーム MINT



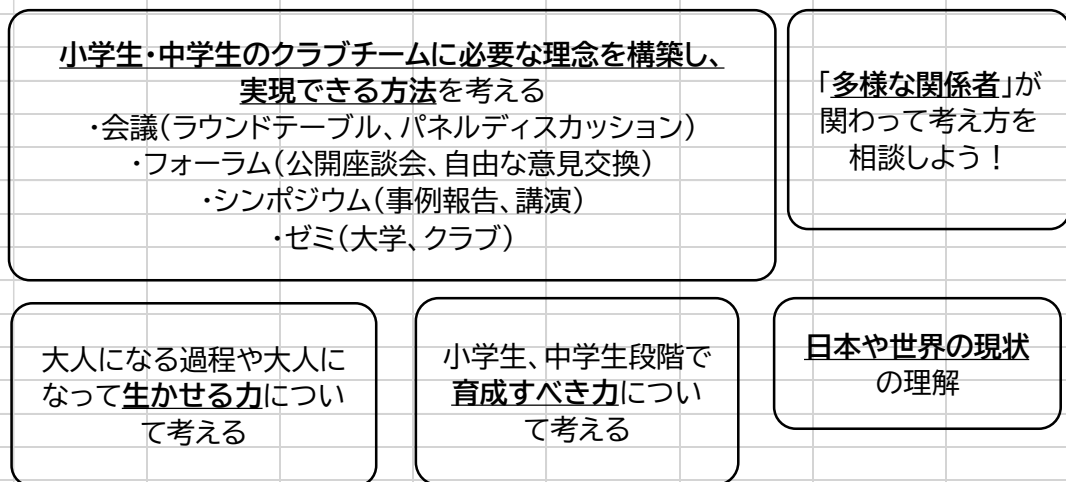
6. 参考イメージ

未来プロジェクトの道すじ

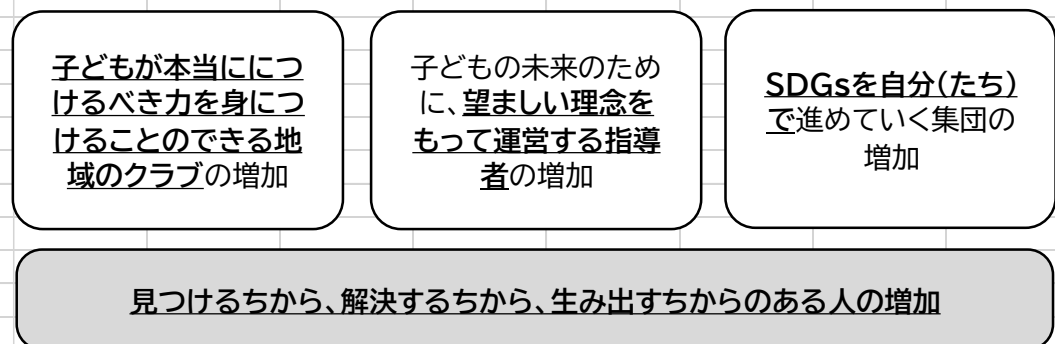
今まで(課題を中心に)・・・もちろん、すべてのチームが該当するわけではありません。



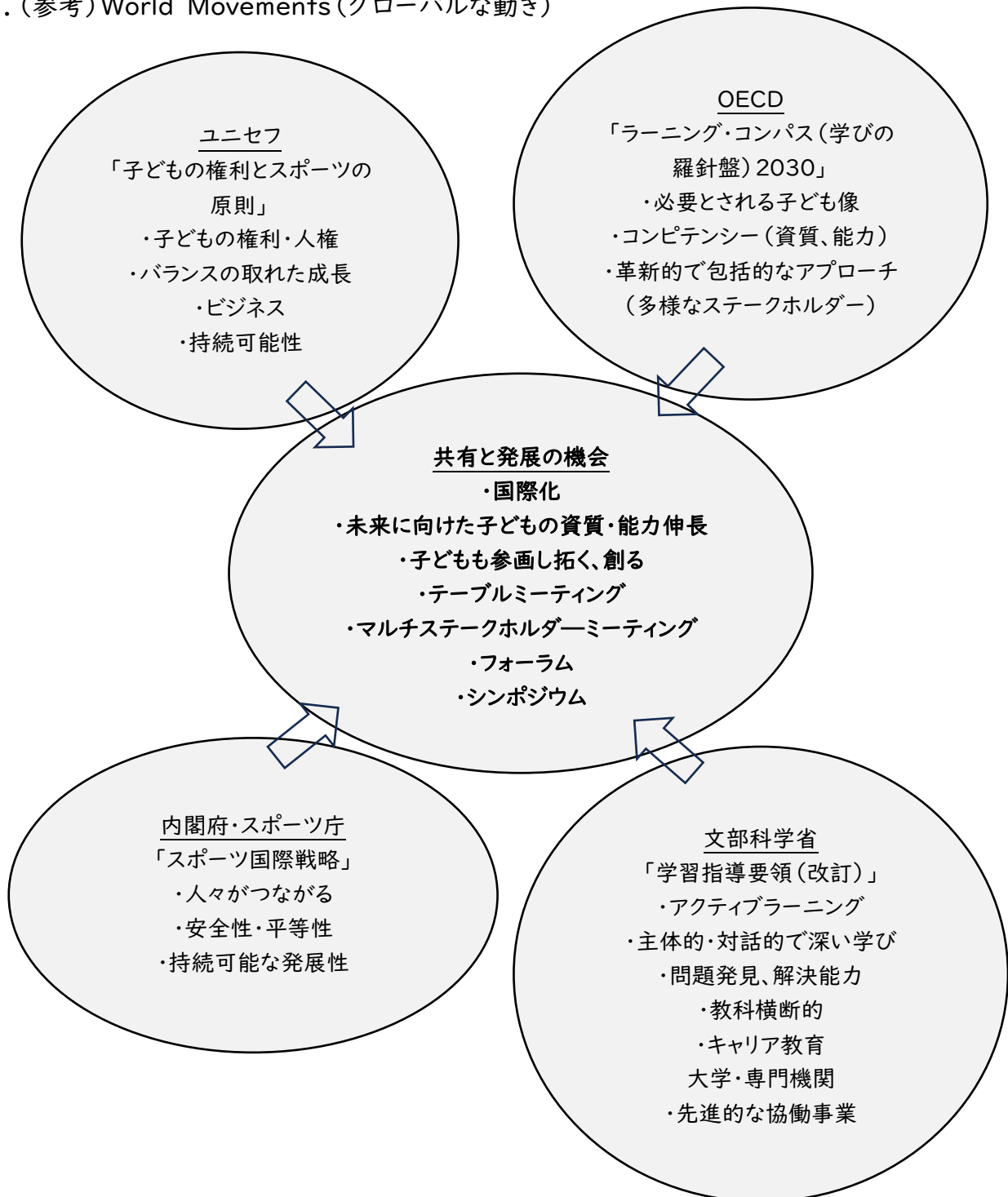
これから・・・私たちが「今」行いたいこと



未来



7. (参考) World Movements (グローバルな動き)



(補足)

・タイトルは「HIGASHI・MINT」のチーム名が入っていますが、「子どもスポーツ未来プロジェクト」などでもよいと思います。スポーツから視野を広げ、未来を担う子どもが小学生段階、中学生段階でどうあるべきかを考えるための提案資料です。

・マルチステークホルダーの文言を使用しました。一般的には企業が利害関係を超え、様々な立場から先に進む過程の一つとして実施するイメージです。しかしながら、ここでは、利害、立場、見識の枠を超えて様々な立場からの参画を意図する文言として使用しています。

8. 参考イメージ

「ラウンドテーブルミーティング」を想定したイメージ



想定している到達点・進行方向

- ・小学生・中学生クラブのチームごとの理念の確立の必要性の確認
- ・競技志向、レクリエーション志向、人間形成志向の重点化とクラブチームのあり方の継続検討
 - ・各クラブチームの理念に則した実践の継続的な情報共有の必要性和方法の共有
 - ・モデルクラブの発信と連携、広報方策の検討と推進
- ・市内の小中学生～大学生の人間形成の先進性、グローバル化の発信材料の一つとして広報推進